徳島市立考古資料館年報

第 16 号 (平成 25 年度)



德島市立考古資料館

ごあいさつ

平成25年度は徳島市立考古資料館が開館して15周年の節目を迎えた年であり、公益社団法人徳島市シルバー人材センターが指定管理者として資料館の運営を受託してから5年目を迎えた年でもありました。

展示公開・教育普及・調査研究などのほかに指定管理者の自主事業として様々な取り組みを行ってまいりました。これらの取り組みの結果、平成 25 年度は開館以来最高となる 10,958 人の来館者を迎えることができました。

今後は開館20周年に向けて様々な事業に取り組み、資料館の活動をより充実させていきたいと考えております。

最後になりましたが、事業活動などにおきまして、ご指導・ご協力などを賜りました関係者の方々に深く感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご指導・ご協力賜りますよう心よりお願い申し上げます。

徳島市立考古資料館

目 次

		/	
平成 25 年度実施事業・・・			 ・・・ 2ページ
平成25年度・ 25年度 1・ 25年度	アム · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		4 \lambda - \forall \cdot \cdo
統計 月別入館者数 過去 5 年間の入館者数推 主要事業来館者・参加者			
考古資料館協議会 考古資料館協議会概要・・ 考古資料館協議会委員・・ 平成 25 年度第1回考古資 平成 25 年度第2回考古資	料館協議会議事抄料館協議会議事抄	··········· 録···· 録····	 ・・・28ペーシ ・・・28ペーシ ・・・28ペーシ ・・・30ペーシ
条例·規則等 徳島市立考古資料館条例 徳島市立考古資料館条例が 徳島市立考古資料館子供取			
書 式 徳島市立考古資料館研修3 資料調査申込書・・・・・	室等利用承諾申請 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<u> </u>	 ・・・38 ペーシ ・・・39 ペーシ
7/4			

気延山出土遺物の調査

平成 25 年度実施事業

- 5月1日(水)~7月15日(日) 企画展1「縄文の風景-三谷遺跡にみる徳 島の縄文文化-」
- 5月2日(木) 佐那河内村立佐那河内小学校6年生社会見学 5月8日(水)
- 吉野川市立川田小学校6年生社会見学5月10日(金)
- 徳島市国府小学校6年生社会見学
- 5月12日(日) 国府町矢野子ども会 展示見学・体験学習 5月14日(火) つるぎ町立貞光小学校6年生社会見学
- 5月18日(土) 考古学入門講座 第1回 「玉文化と徳島の装身具」
- 5月19日(日) 企画展記念講演会 「三谷遺跡の発掘調査」
- 5月20日(月) 徳島市新町小学校6年生社会見学
- 5月30日(木) 神山町立広野小学校6年生社会見学
- 6月2日(日) 市民学芸員考古楽講座 第1回 「徳島の縄文文化」
- 6月11~13日(火~木) 地域職場体験学習 (徳島市国府中学校3年生)
- 6月15日(土) 企画展関連ワークショップ 「鹿角でペンダントをつくろう!」
- 6月16日(日) 市民学芸員考古楽講座 第2回 「徳島の弥生文化」
- 6月22日(土) 考古学入門講座 第2回 「北九州の装身具と玉文化」
- 6月30日(日) 市民学芸員考古楽講座 第3回 「徳島の古墳文化」
- 7月6日(土) 考古楽入門講座 小学生コース

7月13日(土)

考古楽入門講座 中学生・高校生コース 7月14日(日)

市民学芸員考古楽講座 第4回 「考古資料の取り扱いと方法 基礎編」 7月20日(土)

考古楽入門講座 大学生・社会人コース 7月21日(日)

市民学芸員考古楽講座 第5回 「考古資料の取り扱いと方法 実践編」

- 7月23日(火)~9月1日(日) ミニ企画展 夏休みこどもミュージアム 「イシコレ!!―むかしの石の道具 ―」
- 7月27日(土) 考古学入門講座 第3回 「高知の装身具と玉文化」
- 8月3日 (土) サマーナイト in ミュージアム
- 8月10日(土) ミニ企画展関連ワークショップ 「石の鏃をつくろう!!」
- 8月24日(土) 考古学入門講座 第4回 「愛媛の装身具と玉文化」
- 9月7日(土) 子どもゼミナール(勾玉づくり)
- 9月14日(土) 子どもゼミナール(勾玉づくり)
- 9月21日(土) 子どもゼミナール(勾玉づくり)
- 9月26日(木) 徳島市立考古資料館協議会 第1回 9月28日(土)
 - 考古学入門講座 第5回 「香川の玉文化」

- 10月19日(土)~12月1日 開館15周年記念特別企画展「装身具の世界-玉文化に魅せられて-
- 10月20日(日) 文化財まつり
- 11月1日(金) 徳島市立津田小学校出前授業
- 11月3日(日) 徳島市立図書館出前授業
- 1 1月4日 (月・祝) 特別企画展関連ワークショップ 1 「家族でアクセサリーをつくろう!! 1」
- 11月7日(木) 鳴門市立第一小学校 6年生 展示見学
- 11月8日(金) 徳島市佐古小学校 6年生 展示見学・体験学習
- 11月9・10日(土・日) 特別企画展記念シンポジウム 「玉の魅力に迫る〜四国と周辺の玉生産 と玉文化〜」
- 11月16日(土) ふるさと歴史散歩
- 1 1 月 1 7 日(日) 特別企画展関連ワークショップ 2 「家族でアクセサリーをつくろう!! 2」
- 11月23日(土・祝) 一日古代人
- 11月30日(土) ミュージアムトーク 第1回 「玉の魅力について」
- 12月14日(土) 古代のくらし体験学習会 「古代のガラス勾玉をつくろう!!」
- 12月21日(土) ミュージアムトーク 第2回 「古墳時代の女性首長について」
- 1月18日(土)~3月16日(日) 企画展 「徳島市内の遺跡」
- 1月25日(土) ミュージアムトーク 第3回 「天皇陵と火葬塚について」

- 2月11~13日(火~木) 地域職場体験学習 (徳島市国府中学校2年生)
- 2月22日(土) ミュージアムトーク 第4回 「土馬について」
- 3月1日(土) 古代のくらし体験学習会 「古代のガラス勾玉をつくろう!!」
- 3月8日(土) 古代のくらし体験学習会 「古代のガラス勾玉をつくろう!!」
- 3月15日(土) 古代のくらし体験学習会 「古代のガラス勾玉をつくろう!!」
- 3月22日(土) ミュージアムトーク 第5回 「墨書土器について」
- 3月26日(水) 徳島市立考古資料館協議会 第2回 3月29日(土) 古代のくらし体験学習会

「古代のガラス勾玉をつくろう!!」

平成25年度実施事業詳細 企画展 1

平成25年度企画展「縄文の風景-三谷遺跡にみる徳島の縄文文化-」

会 期

平成25年5月1日(水)から7月15日(月)まで

開催日数

67日

場所

徳島市立考古資料館 展示室

主 催

徳島市立考古資料館 徳島市教育委員会

事業区分

展示公開活動事業一企画展示

概 要

三谷遺跡は眉山北鹿に所在した三谷遺跡は、遠賀川系土器や炭化米が出土していることから、徳島でも早い段階で弥生文化の影響を受けた集落だったと考えられている。その一方で石棒の製作するなど、縄文文化を色濃く残してもいた。本展では三谷遺跡出土資料を通して、徳島の縄文時代から弥生時代への移り変わりを紹介した。

展示品

- 石棒
- ・イヌの骨格剥ぎ取り標本
- 突带文土器
- 炭化米

など約80点

入館者数

	男性	女性	計
小学生以下	210人	198人	408人
中学生以上	1162人	933人	2095人
合計	1372人	1131人	2503人
1日あたりの入館者数			37.36人



徳島市立秀古資料館 電島市間時期高光野学展会 10-1 TEL088 637-2526 http://doi.ushima-kouko.jp 企画展チラシ



企画風景

平成25年度実施事業詳細 企画展 1 関連事業

企画展記念講演会「三谷遺跡の発掘調査」

実施日時

平成25年5月19日(日)午後2時から4時まで

場所

徳島市立考古資料館 研修室

講 師

勝浦 康守 氏(徳島市教育委員会社会教育課係長)

事業区分

教育普及活動事業-生涯学習支援事業

概 要

勝浦康守氏を講師に招き、三谷遺跡の調査から分かった徳島市内における縄文文化の展開と終焉、弥生文化の流入を発掘当時の様子と共に紹介し、土器から見える広域交流や貝塚出土の遺存体により分かった三谷遺跡の食生活など、様々な角度から当時の暮らしに迫る内容であった。



聴講者数

男性(中学生以上)	22人
女性(中学生以上)	9人
合計	31人

ワークショップ「鹿角でペンダントをつくろう!」

実施日時

平成25年6月15日(日)午後1時から4時まで

場所

徳島市立考古資料館 研修室

対 象

小学生以上(小学生は保護者同伴) 25人

事業区分

教育普及活動事業一学校教育支援事業

概 要

三谷遺跡より、骨角器や貝製装身具が出土したことに因んだワークショップとして実施。徳島市立動物園より提供を受けた鹿の角を材料に首飾りや腰飾りなどを製作した。



参加者数

	男性	女性	計
小学生以下	10人	10人	20人
中学生以上	0人	5人	5人
合計	10人	15人	25人

平成25年度実施事業詳細 ミニ企画展

夏休み子どもミュージアム「イシコレーむかしの石の道具ー」

会 期

平成25年7月23日(水) から 9月1日(月) まで

開催日数

36日

場 所

徳島市立考古資料館 展示室

主 催

徳島市立考古資料館 徳島市教育委員会

事業区分

展示公開活動事業一企画展示

概 要

石は採取が容易で加工も行いやすいことから、道具の素材として最も古い時代から人類が利用したものである。金属器の登場まで石の道具は人々の生活になくてはならないものであり、金属器の出現以降も様々な用途で使われ続けたほか、勾玉や管玉などの装身具の素材としても用いられた。また、辰砂は顔料である朱の原料となり、矢野遺跡などで生産が行われていたことが明らかになっている。

本展では徳島市内の遺跡で出土した縄文 時代から古墳時代にかけての石製遺物とそ の素材となった原石を展示し、当時の人々 がそれぞれの石の特性を理解し道具作りに 生かしていたことを紹介した。

展示品

- ·蛇紋岩製勾玉(名東遺跡出土)
- •蛇紋岩原石
- ・太型蛤刃石斧(南庄遺跡出土)
- · 石鍬 (三谷遺跡)
- 緑色片岩原石

など約80点



企画展チラシ



企画展チラシ

入館者数

	男性	女性	計
小学生以下	300人	367人	667人
中学生以上	631人	627人	1258人
合計	931人	994人	1925人
1日あた	1日あたりの入館者数		

平成25年度実施事業詳細 ミニ企画展 関連事業

ワークショップ「石の鏃を作ろう!!|

実施日時

平成25年6月15日(日)午後2時から4時まで

場所

徳島市立考古資料館 研修室・野外教室

対 象

小学校4年生以上(小学生は保護者同伴) 25人

事業区分

学校教育支援事業

概 要

石をテーマに企画した展示のワークショップの開催 ということで、縄文時代から弥生時代に鏃の材料とし て重用されていたサヌカイトを実際に使って鏃づくり を行った。

材料のサヌカイトは香川県の金山と大阪府の二上山でにて学芸員が採取してきたものを利用した。

ワークショップでは初めにサヌカイト製の石鏃を取り付けた矢がどれだけの威力があるのかを検証した実験 VTRを見た後で、学芸員によるサヌカイト割りの実演を行った。

その後、サヌカイトの剥片を利用した石鏃を作っていった。縄文時代や弥生時代のサヌカイトの加工には 鹿角の先端部分が利用されていたと考えられているが、募集定員分の鹿角が確保できなかったため、鹿角の代替品として金属製のセンター・ポンチを利用した。

参加者1人あたりおおよそ5点程度石鏃を作成した後、その中から優品を1点選んでもらい、それを矢に取り付けた。矢に取り付けた後、野外教室へ移動し弓を使って的にめがけて矢を飛ばした。

なお当事業については、矢を飛ばす行為が含まれる ため、安全確保の観点から対象を小学生4年生以上に 設定した。

参加者数

	男性	女性	計
小学生以下	2人	1人	3人
中学生以上	2人	2人	4人
合計	4人	3人	7人









平成25年度実施事業詳細 特別企画展

開館 15 周年記念特別企画展「装身具の世界-玉文化に魅せられて-」

会 期

平成25年5月1日(水)から 7月15日(月)まで (開催日数 67日)

場所

徳島市立考古資料館 展示室

主 催

徳島市立考古資料館 徳島市教育委員会

後 援

徳島県文化財保存整備市町村協議会 徳島市文化財保勝会連絡協議会

徳島新聞社

朝日新聞徳島総局

毎日新聞徳島支局

読売新聞徳島支局

NHK 徳島放送局

四国放送

国府 CATV

(順不同)

事業区分

展示公開活動事業一企画展示

概 要

本展は徳島市立考古資料館の開館 15 周 年を記念して開催した。

四国地方、近畿地方、中国地方及び九州 地方の集落遺跡、生産遺跡、墳墓、古墳な どから出土した玉類を中心とする翡翠・滑 石・蛇紋岩・碧玉・瑪瑙・水晶等の装身具(大 珠・勾玉・管玉・丸玉・小玉等)を展示。

入館者数

	男性	女性	計
小学生以下	296人	343人	639人
中学生以上	840人	1034人	1874人
合計	1136人	1377人	2513人
			66.13人



特別企画展チラシ



開幕記念式典

展示品

決状耳飾 / 田井遺跡 徳島県立埋蔵文化財総合センター所蔵

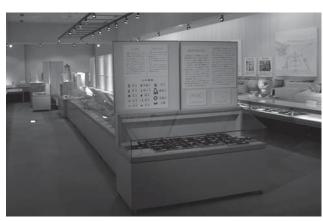
翡翠製大珠 / 徳蔵谷遺跡 唐津市教育委員会所蔵

玦状耳飾 / 松ノ木遺跡 本山町教育委員会所蔵

玦状耳飾/貝元遺跡 福岡県教育委員会所蔵

翡翠 (硬玉)製勾玉/四箇遺跡 福岡市教育委員会所蔵

翡翠製勾玉/菜畑遺跡 唐津市教育委員会唐津市指定文化財



展示風景1

翡翠製勾玉 / 旧練兵場遺跡 香川県埋蔵文化財センター所蔵

翡翠製勾玉 / 持田 3 丁目遺跡 愛媛県教育委員会所蔵

翡翠製勾玉·碧玉製管玉 / 下鈎遺跡 栗東市教育委員会

翡翠製勾玉・褐鉄鉱容器 / 唐古・鍵遺跡 田原本町教育委員会[田原本町指定文化財]

翡翠製勾玉 / 百間川原尾島遺跡 岡山県教育委員会所蔵

翡翠製勾玉/綾羅木郷遺跡下関市立考古資料館蔵

翡翠製勾玉 / 小倉城二ノ丸家老屋敷跡 北九州市教育委員会所蔵

ガラス製小玉 / 井原ヤリミゾ遺跡 糸島市教育委員会所蔵

翡翠 (硬玉)製勾玉/宇木汲田遺跡 佐賀県立博物館所蔵 [佐賀県指定文化財]

翡翠製勾玉•碧玉製管玉/中原遺跡 佐賀県教育委員会所蔵



展示風景2

翡翠製勾玉/長谷古墳 徳島県立博物館所蔵

翡翠製勾玉・碧玉製管玉 / 王墓山古墳 善通寺市教育委員会所蔵

翡翠製丁字頭勾玉 / 正光寺山 1 号墳 新居浜市教育委員会所蔵

碧玉製管玉 / 三島神社 1 号墳 松山市教育委員会所蔵

碧玉製管玉·水晶製管玉/和田1号墳 栗東市教育委員会所蔵

碧玉製勾玉•石釧/安威0号墳 茨木市教育委員会所蔵

緑色凝灰岩製鍬形石·石釧/茶臼塚古墳 柏原市教育委員会所蔵[柏原市指定文化財]

翡翠製勾玉 / 赤尾崩谷古墳群 1 号墳 桜井市教育委員会所蔵

翡翠製勾玉・碧玉製管玉 / 神宮山1号墳 広島大学大学院文学研究科考古学研究室所蔵

翡翠製勾玉·瑪瑙製勾玉/妙徳寺山古墳 山陽小野田市教育委員会所蔵[山口県指定文化財]

翡翠(硬玉)製勾玉/老司古墳福岡市教育委員会所蔵

緑色凝灰岩製石釧/朝日遺跡 佐賀県立博物館所蔵[佐賀県指定文化財]

など約 2800 点



展示風景3

平成25年度実施事業詳細 特別企画展 関連事業

開館 15 周年特別企画展記念シンポジウム「玉の魅力に迫る~四国と周辺の玉生産と玉文化」

日 時

[1日目]

平成25年11月9日(土)午後2時から5時まで

[2日目]

平成 25 年 11 月 10 日 (日) 午前 9 時 30 分から午後 3 時 30 分まで

場所

徳島市立考古資料館 研修室

共 催

日本玉文化学会 (日本玉文化学会 四国大会)

事業区分

教育普及活動事業-生涯学習支援事業

概 要

開館 15 周年記念特別企画展「装身具の世界〜玉文化に魅せられて〜」の開催を記念したシンポジウムを日本玉文化学会との共催(日本玉文化学会四国大会)で実施した。

[1日目]

発表 1

「徳島の縄文の玉文化」 湯浅 利彦 氏 (徳島県教育委員会文化政策課長)

発表2

「九州の玉生産と流通」 大坪 志子 氏 (熊本大学埋蔵文化財調査センター助教)

発表3

「蛇紋岩製勾玉の生産と流通」 菅原 康夫 氏 (公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター専務理事)



発表 1 湯浅 利彦 氏



発表 2 大坪 志子 氏



発表3 菅原康夫 氏



発表 4 米田 克彦 氏

発表4

「瀬戸内海沿岸の弥生勾玉」 米田 克彦 氏 (高知県教育委員会文化財課主幹)

[2日目]

基調講演

「玉文化研究の方法と課題」 藤田 富士夫 氏 (敬和学園大学非常勤講師)

発表5

「近畿の玉生産と玉文化と流通」 廣瀬 時習 氏 (公湖間法人岩手県文化振興業団理蔵文化財センター文化財専門員)

発表6

「出雲の玉生産と玉文化と流通」 深田 浩 氏 (島根県教育庁埋蔵文化財調査研究センター国事業調査第一係長)

シンポジウム

パネラー 藤田 富士夫 氏 湯浅 利彦 氏 大坪 志子 氏 菅原 康夫 氏 米田 克彦 氏 深田 浩 氏

聴講者数

	男性 (中学生以上)	女性 (中学生以上)	合計
1日目	29人	9人	38人
2日目	24人	8人	32人
合計	53人	17人	70人

司会進行 一山 典(当館館長)



基調講演 藤田富士夫 氏



発表 5 廣瀬 時習 氏



発表6 深田浩 氏



シンポジウム

平成25年度実施事業詳細 特別企画展 関連事業

開館 15 周年特別企画展関連事業「家族でアクセサリーを作ろう!!|

Part1「滑石で腕輪をつくろう!!」

日 時

平成 25 年 11 月 4 日 (月・振り替え休日) 午後 1 時から 5 時まで

場所

徳島市立考古資料館 研修室

対 象

徳島市内及び周辺在住者(25 組 50 名)

事業区分

教育普及活動事業一学校教育支援事業

概 要

特別企画展見学のあと、展示資料を参考にして滑石のほか、ビーズなどを材料に自由に加工・整形してもらった後、紐を通して腕飾りを作成した。

Part2「組紐でストラップをつくろう !!」

日 時

平成25年11月17(日)午後1時から5時まで

場所

徳島市立考古資料館 研修室

対 象

徳島市内及び周辺在住者(25組50名)

事業区分

教育普及活動事業-学校教育支援事業

概 要

様々な色の紐を用意し、厚紙で作った 組紐ディスクを使って組紐を製作した。 太めの紐やレース糸を材料に組紐を製作 した。





作業風景(上)・参加者による作品(下)

参加者数

	男性	女性	計
小学生以下	11人	15人	26人
中学生以上	6人	12人	18人
合計	17人	27人	44人





作業風景(上)・組紐ディスクと組紐(下)

参加者数

	男性	女性	計
小学生以下	5人	9人	14人
中学生以上	1人	10人	11人
合計	6人	19人	25人

平成25年度実施事業詳細 企画展 2

平成25年度企画展「縄文の風景-三谷遺跡にみる徳島の縄文文化-」

会 期

平成25年5月1日(水)から 7月15日(月)まで

開催日数

67日

場 所

徳島市立考古資料館 展示室

主 催

徳島市立考古資料館 徳島市教育委員会

事業区分

展示公開活動事業-企画展示

概 要

徳島市内の代表的な遺跡の紹介を目的に 名東遺跡、名東山古墳群、宮谷古墳、庄・ 蔵本遺跡をとりあげた。

特に本展では平成 24 年に市民より寄贈を受けた名東山古墳群出土の小型仿製鏡、平成 25 年3月に奈良県立橿原考古学研究所の協力で実施した宮谷古墳出土三角縁神獣鏡(2号鏡・3号鏡)の三次元計測によって得られた三次元画像を初めて公開した。

また、平成25年1月に出土し話題になった庄・蔵本遺跡出土の銅鐸飾耳と関連遺物を徳島大学埋蔵文化財調査室より借り受けて展示を行った。

展示品

三角縁神獣鏡 / 宮谷古墳 扁平鈕式 4 区袈裟襷文銅鐸 / 名東遺跡 小型仿製鏡 / 名東山古墳群 銅鐸飾耳 / 庄・蔵本遺跡 徳島大学埋蔵文化財調査室所蔵 弥生土器 / 庄・蔵本遺跡

徳島大学埋蔵文化財調査室所蔵

など約10点



企画展チラシ



企画風景

入館者数

	男性	女性	計
小学生以下	210人	198人	408人
中学生以上	1162人	933人	2095人
合計	1372人	1131人	2503人
1日あたりの入館者数			37.36人

平成25年度実施事業詳細 考古学入門講座

考古学入門講座

実施日時

概要参照

場 所

徳島市立考古資料館 研修室

事業区分

教育普及活動事業-生涯学習支援事業

概 要

「装身具が語る地域文化」(大地からのメッセージ 16)のテーマにより実施した。

第1回 「玉文化と徳島の装身具」

日 時 平成25年5月18日(土)

午後2時~4時

講 師 一山典

(徳島市立考古資料館 館長)

第2回 「北九州の装身具と玉文化-北九州市城野遺跡を中心として-」

日 時 平成25年6月22日(土)

午後2時~4時

講師 佐藤浩司氏

(公益財団法人北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室調査係長)

第3回 「高知の装身具と玉文化」

日 時 平成25年7月27日(土)

午後2時~4時

講師 米田克彦氏

(高知県教育委員会文化財課主幹)

第4回 「愛媛の装身具と玉文化」

日 時 平成25年8月24日(土)

午後2時~4時

講師 岡田敏彦 氏

(公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター調査課長)

第5回 「香川の装身具と玉文化」

日 時 平成25年9月28日(土)

午後2時~4時

講師 岡田敏彦 氏

(公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター調査課長)

聴講者数

	男性 (中学生以上)	女性 (中学生以上)	合計
第1回	27人	9人	36人
第2回	24人	9人	33人
第3回	19人	7人	26人
第4回	19人	7人	26人
第5回	25人	7人	32人
合計	114人	39人	153人



第1回 5月18日



第2回 6月22日



第3回 7月27日



第4回 8月24日



第5回 9月28日

平成25年度実施事業詳細 市民学芸員考古学講座

市民学芸員考古学講座

実施日時

概要参照

場 所

徳島市立考古資料館 研修室

対 象

徳島市と周辺在住の中学生以上 25人

事業区分

その他の学芸活動ーその他の業務関連

概 要

「徳島市の歴史と文化」を学び、資料館の 事業(ミニ企画展)の準備を通じて市民との 連携・協力を推進した。

第1回 「徳島の縄文文化」

日 時 平成25年6月2日(日)

午後2時~4時

講師 氏家敏之

(公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター専門研究員)

第2回 「徳島の弥生文化」

日 時 平成25年6月16日(日)

午後2時~4時

講師 近藤玲 氏

(公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター専門研究員)

第3回 「徳島の古墳文化-前期古墳の木棺と"阿波式石棺"の成立-1

日 時 平成25年6月30日(土)

午後2時~4時

講師 栗林誠治 氏

(公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター専門研究員)

第4回 「考古資料の取り扱いと方法基礎編~ミニ企画展の準備を通して~」

日 時 平成 25 年 7 月 14 日 (土)

午後2時~4時

講 師 考古資料館職員

第5回 「考古資料の取り扱いと方法実践編~ミニ企画展の準備を通して~」

日 時 平成25年7月21日(日)

午後2時~4時

講 師 考古資料館職員

聴講者数

	男性 (中学生以上)	女性 (中学生以上)	合計
第1回	19人	9人	28人
第2回	18人	9人	27人
第3回	17人	9人	26人
第4回	16人	4人	20人
第5回	9人	4人	13人
合計	79人	35人	114



第1回 6月2日



第2回 6月16日



第3回 6月30日



第4回 7月14日



第5回 7月21日

平成25年度実施事業詳細 ミュージアムトーク

ミュージアムトーク

実施日時

概要参照

場 所

徳島市立考古資料館 研修室

事業区分

教育普及活動事業-生涯学習支援事業

概 要

「徳島市の歴史と文化」及び特別企画展・ 企画展などに関連したテーマから考古学の最 新情報を提供する目的で実施した。

第1回 「玉の魅力について~特別企画展の展示品を中心に~」

日 時 平成 25 年 11 月 30 日 (土)

午後2時~3時30分

講師 一山典 (当館館長)

第2回 「古墳時代の女性首長について」

日 時 平成25年12月21日(土)

午後2時~3時30分

講師 村田昌也

(当館主任学芸員)

第3回 「天皇陵と火葬塚について」

日 時 平成26年1月25日(土)

午後2時~3時30分

講師 村田昌也

(当館主任学芸員)

第4回 「土馬について」

日 時 平成25年2月22日(土)

午後2時~3時30分

講師 大粟美菜

(当館学芸員)

第5回 「墨書土器について」

日 時 平成25年3月22日(土)

午後2時~3時30分

講 師 大粟美菜

(当館学芸員)

聴講者数

	男性 (中学生以上)	女性 (中学生以上)	合計
第1回	人8	13人	21人
第2回	12人	7人	19人
第3回	27人	13人	40人
第4回	25人	9人	34人
第5回	21人	12人	33人
合計	93人	54人	147人



第1回 11月30日



第2回 12月21日



第3回 1月25日



第4回 2月22日



第3回 3月22日

平成25年度実施事業詳細 考古楽入門講座

考古楽入門講座

実施日時 概要参照

場所 徳島市立考古資料館 研修室

事業区分

文化財保存継承事業



小学生コース

概

考古学を楽しく学んでもらうために、小学生を対象とした「小学生コース」、中学生や高 校生を対象とした「中学生・高校生コース」社会人や大学生を対象とした「大学生・社会人コー ス」を設けて実施した。

区分	日時	内容	講師	参加和	者数
小学生	午前10時から 正午まで	「考古学」って何? 土器・石器にさわってみよう!!	館長	男性 12,	
コース	ш 1 6 С	勾玉を造ってみよう!!	館長	女性	8人
7月6日(土)	午後1時から	銅鐸・銅鏡をつくってみよう!!	主任学芸員 学芸員	合計	20人
	午後5時まで	土器・土製品をつくってみよう!!	事務長		
中学生	<u> </u>	「考古学」って何?	館長		
•	午前10時から 正午まで	考古資料の見方と取扱い	馬及	男性	0人
高校生 コ ー ス	<u> </u>	勾玉を造ってみよう	館長	女性	2人
	午後1時から	銅鐸・銅鏡をつくってみよう	主任学芸員 学芸員	合計	2人
7月13日(土)	午後5時まで	土器・土製品をつくってみよう	事務長		
大学生	<u> </u>	考古学と文化財保護	館長		
	午前10時から 正午まで	考古資料の見方と取扱い	HE IX	男性	6人
社会人 コ ー ス		勾玉を造ってみよう	館長	女性	8人
	午後1時から	銅鐸・銅鏡をつくってみよう	主任学芸員 学芸員	合計	14人
7月20日(土)	午後5時まで	土器・土製品をつくってみよう	事務長		



中学生・高校生コース



大学生・社会人コース

平成25年度実施事業詳細 サマーナイトinミュージアム

サマーナイト in ミュージアム -家族で楽しむ!! 夜の考古資料館-

実施日時

平成 25 年 8 月 3日(日)

朝の部 午前9時30分~正午 昼の部 午後2時~4時30分 夜の部 午後6時~8時30分

場所

徳島市立考古資料館

対 象

小学生とその保護者

事業区分

教育普及活動事業-学校教育支援事業

参加者数

	男性	女性	計
小学生以下	204人	261人	465人
中学生以上	170人	308人	478人
合計	374人	569人	943人



サマーナイト in ミュージアム チラシ

概 要

区分	時間	教室		
	前半 9:30~10:45 後半 10:45~12:00	夏休み宿題教室 (習字教室)		
朝の部	前半 9:30~10:45 後半 10:45~12:00	夏休み宿題教室 (木工教室)		
対の切り	前半 9:30~10:45 後半 10:45~12:00	勾玉づくり		
	前半 9:30~10:45 後半 10:45~12:00	手作り(折り紙)教室		
昼の部	14:00~16:30	土器・土製品づくり		
	14.00	銅鐸・銅鏡づくり		
 夜の部	18:00~20:00	展示室探検		
大の時	10.00* 20.00	矢野古墳探検		
昼~夜の部	13:00~20:00	グッズ販売		
お茶席	朝(10:00~11:30)			
の余品	夜(18:00~19:30)	- 国府小学校茶道クラブ・国府公民館茶道クラブによるお茶席 		
火おこし体験	17:30~18:00	フィナーレのミニ花火大会用の火種を作るために火おこし道具での発火作業		
フィナーレ	20:00~20:30	ミニ花火大会		
生け花展示	9:00~20:30	お茶席との連携で、地元有志による生け花の展示		



夏休み宿題教室(習字教室)



夏休み宿題教室(木工教室)



勾玉づくり



手づくり教室



土器・土製品づくり



銅鐸・銅鏡づくり



展示室探検



矢野古墳探検





お茶席



火おこし体験



生け花展示

平成25年度実施事業詳細 文化財まつり

文化財まつり

実施日時

平成 25 年 10 月 20 日(日) 午前 9 時 30 分~午後 4 時 30 分

場所

徳島市立考古資料館

対 象

徳島市内及び周辺在住の市民 (子ども体験教室は小学生のみ)

事業区分

文化財保存継承事業

参加者数

	男性	女性	計
小学生以下	142人	174人	316人
中学生以上	105人	211人	316人
合計	247人	385人	632人



文化財まつり チラシ

概 要

区分	時間	内容
	前半 9:30~10:45 後半 10:45~12:00	勾玉づくり 対象:小学生(前半・後半各50人)
子ども	前半 9:30~10:45 後半 10:45~12:00	古代のお金づくり 対象:小学生(前半・後半各50人)
体験教室	前半 9:30~10:45 後半 10:45~12:00	ガラス細工づくり 対象:小学生(前半・後半各40人)
	9:30~12:00	紙のおもちゃ作り 対象:小学生(25人)
人形浄瑠璃 上演	13:00~13:40	「傾城阿波の鳴門 巡礼の段」 国府小学校人形浄瑠璃クラブ 国府歴史と文化の伝承会コスモス教室
上供		「傾城阿波の鳴門 巡礼の段」 川内中学校民芸部
文化財めぐり	14:00~16:30	特別企画展見学→矢野古墳→奥谷1号墳→ 宮谷古墳→阿波国分寺庭園
お茶席	10:00~12:00	国府小学校茶道クラブ・国府公民館茶道クラブによるお茶席
その他	9:30~15:00	グッズ販売など







勾玉づくり

勾玉づくり

昔のお金づくり







昔のお金づくり

ガラス細工づくり

ガラス細工づくり







紙のおもちゃづくり

紙のおもちゃづくり

お茶席







国府小学校人形浄瑠璃クラブ・国府歴史と文化の伝承会コスモス教室 「傾城阿波の鳴門 巡礼の段」







川内中学校民芸部 「傾城阿波の鳴門 巡礼の段」

平成25年度実施事業詳細 古代ロマンへの旅・古代のくらし体験学習会

古代ロマンへの旅"ふるさと歴史散歩 みんなの町の文化財を知ろう!!"

実施日時

平成 25 年 11 月 16 日(土) 午後 1 時から 5 時まで

場所

徳島市立考古資料館 研修室

対 象

徳島市内及び周辺在住者

事業区分

教育普及活動事業-生涯学習支援事業



渋野丸山古墳の見学

概 要

- ・開館 15 周年記念特別企画展の見学
- ・考古資料館周辺の古墳めぐり-宮谷古墳、矢野古墳(県指定史跡)等の見学
- ・ 渋野町の古墳めぐり 渋野丸山古墳(国指定 史跡)、新宮塚古墳(県指定史跡)等の見学

参加者数

	男性	女性	計
小学生以下	1人	0人	1人
中学生以上	12人	14人	26人
合計	13人	14人	27人

古代のくらし体験学習会「ガラス勾玉をつくろう!」

実施日時

平成25年12月14日(日) 午前10時から午後4時まで

場所

徳島市立考古資料館 研修室

対 象

小学生以上(小学生は保護者同伴) 25人

事業区分

教育普及活動事業-学校教育支援事業

概 要

当初は10月26日(土)に実施予定であったが、雨天であったため12月14日(日)に延期した。当日は寒波に見舞われ、ガラス勾玉の製作に失敗したため、3月に全4回の再挑戦企画を実施した。

参加者数

2013/12/14	男性	女性	計
小学生以下	4人	5人	9人
中学生以上	9人	3人	12人
合計	13人	8人	21人
2014/3/2	男性	女性	計
小学生以下	2人	3人	5人
中学生以上	2人	3人	5人
合計	4人	6人	10人
2014/3/9	男性	女性	計
小学生以下	0人	0人	0人
中学生以上	0人	5人	5人
合計	0人	0人	5人
2014/3/15	男性	女性	計
小学生以下	0人	0人	0人
中学生以上	0人	6人	0人
合計	0人	6人	6人
2014/3/29	男性	女性	計
小学生以下	6人	3人	9人
中学生以上	1人	8人	9人
合計	7人	11人	18人
総計	男性	女性	計
小学生以下	12人	11人	23人
中学生以上	12人	25人	37人
合計	24人	36人	60人

平成25年度実施事業詳細 ふれあい考古学教室

ふれあい考古学教室「一日古代人」

実施日時

平成 25 年 11 月 23 日(土・祝日) 午後1時~午後5時

場所

徳島市立考古資料館 矢野古墳

対 象

小学3年生~中学3年生とその保護者

事業区分

教育普及活動事業-学校教育支援事業

概 要

はじめに学芸員の解説のもと特別企画展 を見学したのち、矢野古墳の石室を見学し

つづいて、資料館南側の広場にて親子一 組で火おこしを行った。

小休止後、研修室にて滑石を用いて勾玉 をつくり、最後に低融点合金を用いて銅鏡 を作る鋳造体験を行った。

参加者数

	男性	女性	計
小学生以下	6人	14人	20人
中学生以上	5人	8人	13人
合計	11人	22人	33人



特別企画展見学



ふれあい考古学教室 チラシ



火おこし体験



勾玉づくり

平成25年度実施事業詳細 夏休み等支援事業

社会科学習など見学受け入れ

考古資料館では小学校の歴史学習や総合学習などの見学を積極的に受け入れている。学芸員による展示室の解説の他にも矢野古墳の見学や、滑石を用いた勾玉づくり、舞鑽式による火おこし体験など、団体からの要望に応じて実施している。平成25年度は10団体の見学を受け入れた。

また、小学校による見学を積極的に誘致するため、資料館へ来館する際のバス費用の助成を徳島市内と佐那河内村内の小学校を対象に実施している(詳細は「徳島市立考古資料館 子供現地学習事業助成金交付規則」を参照)。平成25年度は2校に対して助成を行った。

平成25年度は小学校等の団体見学の内訳は以下のとおり。

日付団体名		団体タ	バス	人数	内	内訳	
		<u>四</u>	助成	八奴	男性	女性	
5月2日	(木)	佐那河内村立佐那河内小学校6年生	0	12	5	7	
5月8日	(水)	吉野川市立川田小学校6年生		15	6	9	
5月10日	(金)	徳島市国府小学校6年生		100	52	48	
5月14日	(火)	つるぎ町立貞光小学校6年生		26	11	15	
5月20日	(月)	徳島市新町小学校6年生		16	7	9	
5月30日	(木)	神山町立広野小学校6年生		3	1	2	
11月7日	(木)	鳴門市立第一小学校6年生		71	33	38	
11月8日	(金)	徳島市佐古小学校6年生	0	81	39	42	
12月6日	12月6日 (金) 美馬市立美馬小学校6年生			11	5	6	
		合計		335	159	176	



佐那河内小学校見学(5月2日)



川田小学校見学(5月8日)



国府小学校見学(5月10日)



貞光小学校見学(5月14日)



佐古小学校見学(11月8日)



美馬小学校見学(12月6日)

平成25年度実施事業詳細 教育普及活動関連活動

地域職場体験学習の受け入れ

国府中学校実施の地域職場体験学習を受け入れた。

- · 3年生 平成 25 年 6 月 11 日 (火) ~ 13 日 (木)
- · 2年生 平成 26年 2月 11日 (火)~13日 (木)

資料館・矢野古墳の見学、火おこし体験、勾玉づくり、拓本などを体験した。

体験学習・自由研究への対応

勾玉づくり、火おこし、矢野古墳見学などの体験学習は、学校からの要望に応じて対応しているが、学校の他にも様々な団体からの要望にも対応している。平成 25 年度は 2 団体からのの要望に対応し、計 4 回の体験学習を実施した。

- ・矢野子供会 平成25年5月12日(日)勾玉づくり、火おこし体験 参加者数58人
- ・子どもゼミナール(社会教育課主催) 平成25年9月7日(土)、14日(土)、21日(土) 勾玉づくり 参加者数 計57人

また、団体の他に個人単位での体験学習にも対応しており、平成25年度は夏休みを中心に計12件、延42人の体験学習に対応した。さらに、夏休みの自由研究などの相談には電話での対応も含めて延10件の相談に対応した。



子どもゼミナール(9月7日)



子どもゼミナール(9月14日)



子どもゼミナール(9月14日)

出前授業の実施

資料館への来館が困難な団体などに対して、市内の遺跡解説や出土資料の解説、勾玉づくりなど要望に応じて様々な体験学習ができるよう、アウトリーチ型の学習プログラム(出前授業)を用意している。平成25年度は2件の要望があった。

- ・徳島市津田小学校6年生 平成25年11月1日(金) 勾玉づくり 参加者数120人
- ・徳島市立図書館 平成25年11月3日(日) 勾玉づくり 参加者数15人





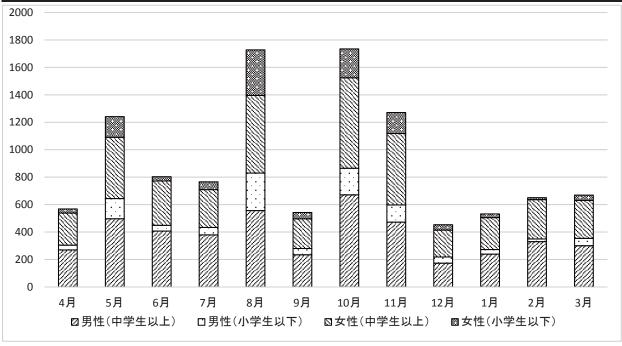
出前授業 津田小学校(平成25年11月1日



統計

月別入館者数

	開館	男性	男性	女 性	女性	合 計	一日平均
月	日数	(中学生以上)	(小学生以下)	(中学生以上)	(小学生以下)		入館者数
4月	25	269	35	234	30	568	22.72
5月	28	497	147	447	150	1,241	44.32
6月	26	407	42	323	31	803	30.88
7月	26	379	54	276	57	766	29.46
8月	27	556	274	566	332	1,728	64.00
9月	25	234	46	216	46	542	21.68
10月	27	671	194	659	211	1,735	64.26
11月	26	472	125	521	153	1,271	48.88
12月	23	173	45	196	39	453	19.70
1月	23	239	33	233	27	532	23.13
2月	23	330	19	287	14	650	28.26
3月	26	300	54	277	38	669	25.73
計	305	4,527	1,068	4,235	1,128	10,958	35.93
一日	平均	14.84	3.50	13.89	3.70	35.93	



過去5年間の入館者数推移

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
男性	(中学生以上)	4,649	4,112	3,435	4,341	4,527
男性	(小学生以下)	1,118	1,464	856	910	1,068
女性	(中学生以上)	3,389	3,310	2,960	3,984	4,235
女性	(小学生以下)	1,111	1,402	841	889	1,128
合	計	10,382	10,288	8,092	10,124	10,958
一日:	平均入館者数	34.24	34.18	26.71	33.08	35.93

統計

主要事業来館者‧参加者集計

事 業 名	平成25年度	平成24年度
企画展1	2,503人 67日 37.81人/日	1,900人 66日 30.15人/日
ミニ企画展	1,925人 36日 53.47人/日	1,829人 36日 50.81人/日
特別企画展	2,513人 38日 66.13人/日	2,158人 48日 44.96人/日
企画展2	1,359人 49日 27.73人/日	1,739人 54日 32.20人/日
考古学入門講座	153人 全5回	139人 全5回
市民学芸員考古楽講座	114人 全5回	64人 全5回
考古楽入門講座	小学生コース 20人 中学生・高校生コース 2人 大学生・社会人コース 14人	小学生コース 44人 中学生・高校生コース 4人 大学生・社会人コース 9人
特別企画展記念事業	70人 シンポジウム(2日間)	150人 講演会(全5回)
企画展記念講演会	31人	52人
ミュージアムトーク	147人 全5回	123人 全5回
サマーナイトinミュージアム	943人	982人
文化財まつり	632人	541人
一日古代人	33人	24人

考古資料館協議会

考古資料館協議会概要

徳島市立考古資料館条例第 16 条に則り、考古資料館協議会を設置、7 人の学校教育、社会教育の関係者及び学識経験者が徳島市教育委員会より協議会委員に任命されている。

平成 25 年度は会長に中村豊氏、副会長に須藤茂樹氏を選出し、平成 25 年 9 月 26 日 (木) と 平成 26 年 3 月 26 日 (水) に協議会を開催した。

考古資料館協議会委員

会 長 中村 豊 氏 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部准教授

副会長 須藤 茂樹 氏 四国大学文学部講師

委 員 盛 幸一 氏 徳島市社会教育委員会委員長

委 員 佐藤 靖彦 氏 徳島市国府小学校校長 委 員 奥村 勝 氏 徳島市国府中学校校長

委 員 岩﨑 正夫 氏 徳島市文化財保護審議会委員

委員 高島 芳弘 氏 徳島県立博物館館長

平成 25 年度 第 1 回 考古資料館協議会議事抄録

Ⅰ とき 平成25年9月26日(木)午前10時~11時

Ⅱ ところ 徳島市立考古資料館研修室

Ⅲ 出席者 協議会 中村会長・須藤副会長・盛委員・高島委員・奥村委員

教育委員会 石井教育長・杉本課長補佐・吉岡管理係長・竹縄管理係主事

考古資料館 一山館長

倉佐事務長・村田主任学芸員・大粟学芸員(職員紹介後退席)

IV 内容

- 1 会議前の内容
 - (1) 委嘱状の交付

会議に先立ち、委員の改選時期のために、石井教育長より出席の5委員に対して、委嘱状の交付をさせていただきました。

- (2) あいさつ(石井教育長)
- (3) 会長・副会長の選出
 - ① 委員・職員紹介後、会長・副会長の選出に入り、互選により、中村委員が会長、須藤 委員が副会長に選出されました。
 - ② 中村新会長のあいさつ
- 2 会議内容

議事進行につきましては、中村豊新会長におねがいいたしました。

- (1) 報告事項
 - ① 平成24年度第2回徳島市立考古資料館協議会会議抄録報告
 - ② その他
- (2) 協議事項
 - ① 平成 25 年度徳島市立考古資料館事業計画(案)
 - ② その他

V 主なご意見等

「平成25年度 徳島市立考古資料館事業計画(案)」などに関しまして、各委員より、様々なご意見などをいただきましたが、主な内容は次のようなものでした(○=委員のご意見 ●=考

古資料館・社会教育課の回答)。

- 1 展示公開活動について
 - (1) 開館 15 周年記念特別企画展について
 - ① 展示スペースの問題
 - 借受ける資料は、適切な数量として、借りすぎて展示できないことがないように検討した方がいい。今夏の展示(「イシコレ」)は、展示数量が適切で見やすくて良かった。
 - 貴重な展示資料を展示するために、展示スペースの確保(常設展示スペース等利用など)や展示空間の確保などの工夫が必要不可欠である。
 - (2) 企画展のテーマ設定について
 - ① 対象を絞ったテーマの設定
 - 中世の一宮城跡など、ターゲットを絞った企画展等も必要不可欠であるとともに、 近世の展示も考えてもいいのではないか。
 - 徳島城博物館とのすみわけを図るために、考古資料館では、中世までを主に扱っています。
 - 近世の展示は出来ないのか。
 - 徳島城博物館は文献が主であり、出土品はあまり扱っていない。考古学の切り口から展示したら、近世も扱うことも問題ないのではないか。
 - ② 地元に密接なテーマの設定
 - 徳島についての問題を取りあげることにより、来館者により一層の興味を持っても らう必要がある。
- 2 教育普及活動について
 - (1) PRに関すること
 - 一定の成果のあるサマーナイト in ミュージアムに対して、一部のワークショップの 参加人数が少ない原因は P R 不足と思われるので、募集方法等にも工夫が必要である。
 - 職場体験学習等でお世話になっているが、中学校では新しい指導要領も提示され、 キャリア教育が取りあげられ、学校現場は受け入れ先を探している。職場体験学習に 力点をおいて取り組んでもいいのでは。
 - イベントに若い人達が積極的に参加できるような工夫が必要である。
 - 各種の行事と連携を図りながらPRを実施して、相乗効果を図っていきたいと考えております。
- 3 事業活動全般について
 - (1) 入館者増に関すること
 - ① 課題の抽出に関すること
 - 入館者数がもう少し増加しても良いのではないか、入館者増に至らない問題は何か (PR不足や駐車場の利用促進などの課題など)などの課題の抽出が必要である。特に、 広報面では問題があるのではないか。メディアにもっととりあげられるよう努めては どうか。
 - ② PRの方法等に関すること
 - 地元では、考古資料館を地域の顔あるいは私達の財産としてとらえており、阿波史 跡公園の遊歩道などの清掃活動なども実施している。考古資料館も地域の人に理解し てもらえるような創意工夫が必要である。
 - 参加者が少ない理由の一つに、貴重な文化財の展示がないこともあげられるので、 将来的には国宝・重要文化財等の展示などによる展示内容等の充実を図る必要があり、

- 二度・三度のリピーターの確保が入館者増にもつながる。
- 展示室が国宝・重要文化財等の展示できる施設となっていないので、現実的には国宝・ 重要文化財等の展示は難しいと考えております。
- (2) PR活動について
 - ① 資料提供の重要性に関すること
 - テレビ、新聞等のマスコミへの積極的な資料提供が重要であり、企画展等も広報の 重要性を自覚する必要がある。
 - 資料提供をするだけでなく、併せて電話等でお願いするなど、マスコミに関心を持ってもらえるような積極的な働きかけが必要では。
 - ② 効果的な P R の工夫に関すること
 - 予算には限りがあるので、ターゲットを絞って、広報することが重要である。また、 ラジオなどを活用した、効果的で予算をかけないPRの仕方も考えるべきである。
 - 興味を持つ人へのより積極的な働きかけとともに、興味を持たない人の取り込みも 必要不可欠である。
 - 広報活動に関しては、徳島県立博物館では、文化の森に来ていただいた人に寄ってもらうことを意図して、公園利用者への案内・PRなどを積極的に推進している。考古資料館においても、別の目的で周辺などに来た人を取り込んでいけるような取り組みを検討してみてはどうか。
 - PR活動につきましては、ご指摘のとおり、不足していると思われますので、講座 等の裏表紙などで、PRなどをするなどの各行事等の相乗効果が得られるように工夫し ておりますが、より一層の工夫を図っていきたいと考えております。
- (3) その他
 - ① 学校教育支援事業について
 - 小学生の総合学習関連の体験学習活動へのバス代の助成は継続して実施するのか。
 - 前年度より減額していますが、実施する予定にしております。

平成 25 年度 第 2 回 考古資料館協議会議事抄録

- Ⅰ とき 平成26年3月26日(水)午前10時~12時
- Ⅱ ところ 徳島市立考古資料館研修室
- Ⅲ 出席者 協 議 会 中村会長・須藤副会長・盛委員・高島委員 教育委員会 杉本課長補佐・吉岡管理係長・竹縄管理係主事 考古資料館 一山館長・倉佐事務長

IV 内容

- 1 会議前の内容
 - (1) あいさつ(杉本課長補佐)
 - (2) あいさつ (中村会長)
- 2 会議内容
 - 議事進行につきましては、中村豊会長におねがいいたしました。
 - (1) 報告事項
 - ① 平成25年度第1回徳島市立考古資料館協議会会議抄録報告

- ② その他
- (2) 協議事項
 - ① 平成26年度徳島市立考古資料館事業計画(案)
 - ② その他

V 主なご意見等

「平成 25 年度考古資料館事業報告」並びに「平成 26 年度考古資料館事業計画(案)」等に関しまして、各委員より、様々なご意見などをいただきましたが、主な内容は次のようなものでした。(○= 委員のご意見 ●= 考古資料館・社会教育課の回答)

- 1 展示公開活動について
 - (1) 特別企画展の展示図録について
 - 特別企画展の図録については、徳島城博物館の図録などと比べて、内容が難しすぎるように思う。一般市民対象の図録ならば、中高生でも理解できるような平易な内容にするべきではないか。また、発行部数 300 部と聞くが少ないのではないか。
 - 少し専門的になりすぎた傾向もありますが、新年度からは図録編集も新体制になるため、その点に留意したい。発行部数については、予算的な関係もあり、300部にとどまった。確かに無償、有償頒布合わせて十分な発行部数とは言えないが、新年度は 500 部を予定しており、来館者のニーズに応えたいと考えております。
- 2 教育普及活動について
 - (1) 出前授業について
 - 他の事業に比べて、出前授業の回数が少ないが、原因について心当たりはありますか。
 - 昨年まで出前授業に行っていた小学校の校長先生の異動などにより、残念ながら学校 側の年間カリキュラムから外れてしまったと思われます。
 - 校長先生の個人的な意見や差配に頼るのは如何なものか。
 - 資料館としても、個人的なつながりによるものが十全とは考えていませんので、平成 24 年度より学校向けの体験学習用パンフレットなどを各小学校に配ることで、資料館利用を促してきましたが、出前授業については、現状では手ごたえが薄い。ただし、新年度からは資料館の現館長が退き新体制となり、新館長が学校教育関係出身者ですので、学校側との協力体制の構築は有利と思われます。学校側との連携強化は今後の課題としたい。
 - 県立博物館も出前授業を行っているが、資料館同様に需要は少ない。火起こし体験が 主となるが、新しいアプローチが必要なのかもしれない。
 - 学校側のニーズなども汲み取り、出前授業などの内容にも反映させたいと考えております。
 - 出前授業は市外でも受け付けるのか。
 - 近隣であれば、市外でも対応したいが、スタッフ等の関係からあまり遠方については 難しいと考えております。
 - 資料館の研修室で行なわれている校長会などでPRをしてはどうか。出前授業を恒常的に行うことで、年間を通じての学校の授業スケジュールの中で、安定的な位置づけを得られるように努力してほしい
 - (2) 「サマーナイト in ミュージアム」について
 - サマーナイト in ミュージアムの夜の部内容についてはどのようになっているのか。
 - 展示室の照明を最小限にした見学や矢野古墳の探検などとなっています。
 - (3) 参加者数について

- 各講座の受講人数は 30 人前後で安定しているようだが、3 月のガラス勾玉制作の受講者が少ないのは、何か理由があるのか。
- 本来 12 月 14 日の 1 回のみの講座でしたが、低温等の外因的条件のため、勾玉製作が不首尾に終わったので、再チャレンジとして、3 月に 3 回に分けて行った。基本的には、第 1 回参加者を対象とし、告知もホームページのみとしたため、受講者が伸びなかったものと思われます。

3 事業活動全般について

- (1) 活動方針について
 - "本物"のある資料館として、理解の根幹である「見て、さわって、触れて、作る」という学習を大切にしてほしい。
- (2) 入館者増について
 - ポスター・チラシ等を使った P R についてだが、図書館・博物館などの定番の文化的施設以外にも、病院の待合室などに配布してはどうか。大勢の人々が長時間留まるため、ポスターの効果としては高いと思われる。また、利用者の大半を占める高齢者を対象にすることで、新たな利用者層が期待できるのではないか。
 - 掲示場所など、従来の発想にとらわれず、PR方法なども含め、新規来館者などの発掘のため、様々な可能性を探ってみたいと考えております。
 - インターネットの普及に伴い、ホームページの持つ情報発信力の重要性は日々増していると思われる。利用者増に繋がるアクセス件数を伸ばすためには、ホームページの随時更新など飽きさせない工夫が必要であろう。
 - 随時更新に努めたいと考えております。
- (3) 対象者に関すること
 - イベントごとに、対象が市民か県外かなど、対象者を変更するなどの工夫をしてみて はどうか。
 - 動しい点もあるあるかもしれませんが、今後の検討課題としたいと考えております。
- (4) 学校教育支援事業について
 - バスの助成金制度があまり使われていないようだが。
 - 前年度より利用数が減少しているのは、悪天候によるキャンセルが続いたためですが、 周知不足もあったと思われます。

3 その他

- (1) 職員派遣について
 - 徳島大学での「博物館経営学」の講義に考古資料館学芸員の派遣は可能か。
 - 考古資料館の事業活動等に支障がなければ可能と思われますが、指定管理者側の判断に委ねます。

条例 • 規則等

○徳島市立考古資料館条例

平成 10 年 6 月 24 日 条例第 26 号

(設置)

- 第1条 本市は、市民の教育、学術及び文化の創造と発展に寄与するため、考古資料館を設置する。
- 2 考古資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 徳島市立考古資料館

位置 徳島市国府町西矢野字奥谷 10番地の1

(事業)

- 第2条 徳島市立考古資料館(以下「考古資料館」という。)は、次に掲げる事業を行う。
 - (1) 原始・古代を中心とした考古資料等に関する実物,複製,模写,模型,文献,写真,図表,フィルム等の資料(以下「考古資料館資料」という。)を収集,保管及び展示すること。
 - (2) 考古資料館資料の利用者に対し、必要な説明、助言、指導等を行うこと。
 - (3) 考古資料館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
 - (4) 考古資料館資料に関する案内書,解説書,目録,図録,年報,調査研究の報告書等を作成し,及び頒布すること。
 - (5) 考古資料館資料に関する展覧会,講演会,講習会,研究会等を主催し,又は奨励すること。
 - (6) 他の博物館、図書館、公民館、学校等の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携及び相互協力を行うこと。
 - (7) その他前条の設置目的を達成するために必要な事業

(指定管理者による管理)

第3条 考古資料館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であって 教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)に行わせる。

(全部改正〔平成 20 年条例 20 号〕)

(指定管理者が行う業務)

- 第4条 指定管理者は、次に掲げる業務を行う。
 - (1) 第2条各号に掲げる事業に関する業務
 - (2) 第6条の承諾に関する業務
 - (3) 考古資料館の維持管理に関する業務
 - (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める業務

(全部改正〔平成 20 年条例 20 号〕)

(休館日及び供用時間)

- 第5条 考古資料館の休館日は、次のとおりとする。
 - (1) 月曜日(月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは除く。)
 - (2) 休日の翌日(休日の翌日が日曜日、土曜日又は休日に当たるときは除く。)
 - (3) 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで
- 2 考古資料館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。
- 3 指定管理者は、特に必要があると認めるときは、前2項の規定にかかわらず、教育委員会の承認を得て、これを変更することができる。

(全部改正〔平成 20 年条例 20 号〕)

(利用の承諾)

- 第6条 考古資料館の研修室及び附属設備(以下「研修室等」という。)を利用しようとする者は、あらかじめ指定管理者の承諾を受けなければならない。
- 2 学術研究等のため、考古資料館資料の撮影、模写、模造等(以下「特別利用」という。)を行おうとする者は、指定管理者の承諾を受けなければならない。
- 3 指定管理者は、前2項の承諾に考古資料館の管理上必要と認められる条件を付することができる。

(全部改正〔平成 20 年条例 20 号〕)

(利用の承諾の制限)

- 第7条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、研修室等の利用を承諾しない。
 - (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
 - (2) 研修室等及び考古資料館資料を損傷するおそれがあると認められるとき。
 - (3) 営利を目的として使用すると認められるとき。
 - (4) 考古資料館の事業の実施に支障があると認められるとき。
 - (5) その他公益上又は管理上適当でないと認められるとき。

(一部改正〔平成 20 年条例 20 号〕)

(特別利用の承諾の制限)

- 第8条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、考古資料館資料の特別利用の承諾をしない。
- (1) 考古資料館資料の保存に悪影響が生じると認められるとき。

- (2) 他の入館者の観覧に支障があると認められるとき。
- (3) その他公益上又は管理上適当でないと認められるとき。

(一部改正〔平成 20 年条例 20 号〕)

(利用料金)

- 第9条 第6条第1項の承諾を受けた者は、指定管理者に研修室等の利用に係る料金(以下「利用料金」という。)を支払わなければならない。
- 2 利用料金の額は、別表に掲げる額の範囲内において指定管理者があらかじめ市長の承認を得て定める。
- 3 利用料金は、第6条第1項の承諾の際に納入しなければならない。ただし、指定管理者が特に必要があると認める場合は、この限りでない。
- 4 利用料金は、指定管理者の収入として収受させるものとする。

(追加〔平成20年条例20号〕)

(利用料金の不還付の原則)

第10条 既に納入した利用料金は、返還しない。ただし、指定管理者が特別の事由があると認める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(追加〔平成 20 年条例 20 号〕)

(利用料金の減免)

第11条 指定管理者は、市長が別に定める基準に従い、利用料金を減額し、又は免除することができる。

(追加〔平成20年条例20号〕)

(入館の拒否等)

- 第12条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、考古資料館への入館を拒否し、又は退館を命ずることができる。
 - (1) 騒音を発し、又は暴力を用いる等他人に迷惑をかけるおそれがあると認められる者
 - (2) 考古資料館の施設, 附属設備及び考古資料館資料を損傷するおそれがあると認められる者
 - (3) 感染性の疾患があると認められる者
 - (4) 他人に危害を及ぼし、若しくは迷惑をかけるおそれがあると認められる物品又は動物を携行する者
 - (5) その他考古資料館の管理上支障があると認められる者

(追加〔平成 20 年条例 20 号〕)

(利用等の承諾の取消し)

- 第13条 指定管理者は、研修室等の利用の承諾を受けた者及び考古資料館資料の特別利用の承諾を受けた者(以下「利用者」という。)が、次の各号のいずれかに該当するときは、その利用及び特別利用(以下「利用等」という。)の承諾を取り消し、又は制限し、若しくは停止することができる。
 - (1) 第7条及び第8条各号のいずれかに該当するに至ったとき。
 - (2) 利用等の承諾に付した条件に違反したとき。
 - (3) 偽りその他不正の手段により利用等の承諾を受けた事実が明らかになったとき。
 - (4) この条例、この条例に基づく規則若しくは教育委員会規則又はこれらに基づく命令に違反したとき。

(一部改正〔平成 20 年条例 20 号〕)

(原状回復の義務)

- 第14条 利用者は、その利用等が終わったとき又は前条の規定により利用等の承諾の取消し等の処分を受けたときは、直ちに原状に回復し、指定管理者の係員の点検を受けなければならない。
- 2 利用者が前項の義務を履行しない場合は、指定管理者がこれを代行し、これに要した費用を利用者から徴収する。

(一部改正〔平成 20 年条例 20 号〕)

(損害賠償等の義務)

第15条 考古資料館の施設, 附属設備又は考古資料館資料を滅失し, 損傷し, 又は汚損した者は, これを原状に回復し, 又はその損害を賠償しなければならない。

(一部改正〔平成 20 年条例 20 号〕)

(考古資料館協議会)

- 第16条 博物館法 (昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、考古資料館に徳島市立考古資料館協議会(以下「協議会」という。)を置く。
- 2 協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。
- 3 協議会は、委員7人以内で組織する。
- 4 協議会の委員の任期は2年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。
- 5 前項の規定にかかわらず、特別の事由があるときは任期中であっても解職することができる。
- 6 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

(一部改正〔平成 20 年条例 20 号・24 年 14 号〕)

(教育委員会規則への委任)

第17条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(一部改正〔平成 20 年条例 20 号〕)

附 則

(施行期日)

1 この条例は、規則で定める日から施行する。

(平成 10 年 9 月規則第 45 号により,平成 10.10.1 から施行。ただし,第 3 条から第 14 条までの規定並びに附則第 2 項及び 第 3 項の規定は,平成 10.11.21 から施行)

(徳島市都市公園条例の一部改正)

2 徳島市都市公園条例 (昭和 32年徳島市条例第10号)の一部を次のように改正する。

(「次のよう」は省略)

(非常勤の特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

3 非常勤の特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例 (昭和 43 年徳島市条例第 3 号) の一部を次のように改正する。 (「次のよう」は省略)

附 則(平成20年6月30日条例第20号)

(施行期日)

1 この条例は、平成21年4月1日から施行する。

(準備行為)

2 この条例による改正後の徳島市立考古資料館条例 (以下「改正後の条例」という。) 第3条に規定する指定管理者の指定及びこれ に係る手続その他この条例を施行するために必要な行為は、この条例の施行の日 (以下「施行日」という。) 前においても行うこと ができる。

(経過措置)

- 3 施行日前において、この条例による改正前の徳島市立考古資料館条例(以下「改正前の条例」という。)の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、改正後の条例の相当規定によってしたものとみなす。
- 4 前項の規定にかかわらず、施行日前において、改正前の条例第4条第1項の利用の承諾を受けた者であって、施行日以後に利用するものに係る使用料については、なお従前の例による。

附 則(平成24年3月29日条例第14号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表(第9条関係)

(一部改正〔平成 20 年条例 20 号〕)

1 研修室利用料金

利用料金の額	1 時間につき 300円 (全日利用は,	2,100円)

2 附属設備利用料金

種別	利用料金の額	
ビデオデッキ その他	1 件につき 100 円	

○徳島市立考古資料館条例施行規則

平成10年9月30日教育委員会規則第9号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島市立考古資料館条例 (平成10年徳島市条例第26号。以下「条例」という。) の施行に関し、必要な事項を 定めるものとする。

(施設等の利用の手続)

- 第2条 条例第6条第1項の規定により、考古資料館の研修室及び附属設備(以下「研修室等」という。)を利用しようとする者は、 徳島市立考古資料館研修室等利用承諾申請書を指定管理者に提出しなければならない。
- 2 前項の申請書は、利用しようとする日 (その日が引き続き 2 日以上に及ぶときは、その初日をいう。以下「利用日」という。)の 3 月前から当日までの間に提出しなければならない。ただし、指定管理者がこれらの期間によりがたい特別の事情があると認めると きはこの限りでない。
- 3 指定管理者は、研修室等の利用を承諾したときは、徳島市立考古資料館研修室等利用承諾書を交付するものとする。

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(利用の取消及び利用内容の変更)

- 第3条 研修室等の利用の承諾を受けた者(以下「利用者」という。)が研修室等を利用することができなくなったときは、前条第3 項に規定する承諾書その他指定管理者が必要と認める書類を添えて、直ちにその旨を文書で指定管理者に届け出なければならない。
- 2 利用者が利用の承諾の内容を変更して研修室等を利用するときは、指定管理者の承諾を受けなければならない。この場合における

承諾の手続きは, 前条の規定を準用する。

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(利用権譲渡等の禁止)

第4条 利用者は、その利用に関する権利を他人に譲渡し、又は利用の承諾を受けた施設を転貸してはならない。

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(特別利用の承諾)

- 第5条 条例第6条第2項の考古資料館資料の撮影,模写,模造等(以下「特別利用」という。)を行おうとする者は,徳島市立考古 資料館特別利用承諾申請書を指定管理者に提出しなければならない。
- 2 指定管理者は、特別利用を承諾したときは、徳島市立考古資料館特別利用承諾書を交付するものとする。

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(手続き等の準用)

第6条 第3条及び第4条の規定は、考古資料館資料の特別利用について準用する。この場合において、第3条第2項中「前条」とあるのは「第5条」と読み替えるものとする。

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(考古資料館資料の館外貸出し)

- 第7条 考古資料館資料は、館外への貸出しをしない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、この限りではない。
- (1) 博物館法 (昭和 26 年法律第 285 号) 第 2 条第 1 項に規定する博物館及び同法第 29 条に規定する博物館に相当する施設に対し貸し出す場合
- (2) その他, 教育委員会が特に認めた者に対し貸し出す場合

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(損傷等の届出)

第8条 考古資料館の施設, 附属設備又は考古資料館資料を滅失し, 損傷し, 又は汚損した者は, 直ちにその旨を係員に届け出るとともに, 徳島市立考古資料館施設等滅失・損傷・汚損届を指定管理者に提出しなければならない。

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(入館者の遵守事項)

- 第9条 考古資料館の入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。
 - (1) 考古資料館の施設,設備又は考古資料館資料をき損し、又は汚損しないこと。
 - (2) 他の入館者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
 - (3) 許可を受けないで考古資料館資料の撮影,模写等をしないこと。
 - (4) その他指定管理者が指示する事項

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(考古資料館協議会の役員)

- 第10条 条例第14条に規定する徳島市立考古資料館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長を置く。
- 2 会長及び副会長は、協議会の委員(以下「委員」という。)の互選により決める。
- 3 会長及び副会長の任期は、委員としての在任期間とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 会長は、会務を総理する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(協議会の会議)

- 第11条 協議会の会議(以下「会議」という。)は会長が招集するものとする。
- 2 会議は毎年2回開催する他必要に応じて臨時会を開催するものとする。
- 3 会議は、委員の2分の1以上が出席しなければ開くことができない。
- 4 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは会長の決するところによる。

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(委任)

第12条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

附 則

この規則は、平成10年10月1日から施行する。ただし、第2条・第3条・第4条・第5条・第6条・第7条・第8条・第9条・第

10条・第11条・第12条・第13条及び第14条の規定については、平成10年11月21日から施行する。

附 則(平成20年6月30日教委規則第17号)

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

徳島市立考古資料館 子供現地学習事業助成金交付規則

(目的)

第一条 徳島市立考古資料館(以下「資料館」という。)における体験学習は様々なカリキュラムを通じて、徳島市の歴史と文化、そして考古学への関心と理解を育むためのものであり、また、資料館の活動を広く一般に周知する主要事業のひとつである。

この体験学習を社会科授業の一環として、徳島市内各小学校に活用を促す契機とするため、また、公共交通機関使用時の利便性に欠ける資料館の立地的条件を補うべく、徳島市内小学校を対象に子供現地学習事業助成金(以下「助成金」という。)を交付し、資料館の積極的利用の促進を図ることを目的とする。

(交付対象)

第二条 助成金の交付対象校は次のとおり定める。

- (1) 助成金交付対象は原則として徳島市内小学校とするが、近隣自治体の小学校に対しても可能な範囲で個別に考慮する。
- (2) 助成金は資料館を利用した社会科授業の一環としての校外学習活動の支援を目的とし、遠足や観光などを主目的とする活動には 交付しない。
- (3)学校側が使用する交通手段は公共交通機関が望ましいが、児童の利便性、安全性なども考慮に入れ、常識的な選択の範囲内であれば、これを認める。ただし自家用車利用に伴う実費の請求等、支出根拠の不透明な事例には交付しない。

(交付申請書)

第三条 助成金の交付を受けようとする小学校は、「子供現地学習事業助成金申請書」に次の書面を添付し、公益社団法人 徳島市シルバー人材センター 理事長に提出しなければならない。

- (1) 使用交通機関の領収証書(コピーであっても可。)
- (2) その他、理事長が必要と認めるもの。

(助成金の交付)

第四条 助成金申請が適当と認めた時は、以下のとおりで定めた額を交付するものとする。

また、助成金申請受付は先着順とし、交付については予算の範囲内とする。

- (1)申請額 10,000 円未満までは全額を交付する。
- (2) 申請額 10,000 円以上は申請額の 50%+5,000 円の合計を交付、ただし支出最高

限度額は 50,000 円とする。

附 則

この規約は、平成25年4月1日から施行する。

徳島市立考古資料館研修室等利用承諾申請書														
徳島市立考古資料館長 殿								平)	成	年	月	日		
							申請者	•	住	所				
									氏(法)		等の場合	は、そ	の名称及び	び代表者氏名)
									電	話				番
	徳	島市	立考	古資料	館の	研修室等	を次のと	おり)利月	用した	いのて	、申	請します	0
利	用	目	的											
利月	月予	定力	人数											人
研修	多室和	刊用	日時							年年	月月	日日	時 時	分から 分まで
付利	属用	設日	備時							年年	月月	日日	時 時	分から 分まで
付属	属設備	帯の	内容											
利 用 料 金(記入不要)			研修室利用料金					円	合計			円		
			付属設備利用料金						—					
備			考											
承					決	館	長		事	務	長		担	当
認					裁									

		資	料	調	査	申	込	書			
								平成	年	月	日
徳島市立考古資料館長 宛											
						氏	名				
						<u>所</u>	属				
						<u>住</u>	所				
						電	話				
徳島市立考古資料	徳島市立考古資料館にて収蔵している資料について、以下の内容で調査を申し込みます。										
資料名及び数量											
調査の目的											
	平成	年		月		日		時	分から)	
調査希望日時	平成	年		月		日		時	分まて	<u>.</u>	
	調査期間		日間	引							
調査の内容	□熟覧		 実測]写真	撮影					
	□その他	()
連絡事項											

館長	事務長	係

徳島市立考古資料館年報 第16号(平成25年度)

発行年月日 平成 26(2014) 年 8 月 25 日

編集・発行 徳島市立考古資料館

徳島市国府町西矢野字奥谷 10-1 TEL 088-637-2526 FAX 088-642-6916 URL http://tokushima-kouko.jp

印刷・製本 グランド印刷株式会社

表紙写真 渋野丸山古墳出土円筒埴輪

気延山出土遺物の調査

主任学芸員 村田 昌也

はじめに

徳島市の北西端、石井町と境界を接する位置に標高 212.3 メートルの気延山がそびえる。気延山一帯には古墳時代後期を中心に多くの古墳が確認されており、徳島考古学グループが実施した調査では、約 100 基の古墳の存在を確認している。

徳島市側にあたる気延山東側の山裾には三角縁神獣鏡が出土した宮谷古墳、4世紀前半の前方後方墳である奥谷1号墳、積石塚の奥谷2号墳、横穴式石室を有する矢野古墳が立地するほか、山麓一帯は縄文時代から古代にかけて集落が形成された矢野遺跡が広がっている。奈良時代になると阿波国府が設置され、阿波国分寺も建立されている。また、戦国時代を迎えると、三好長治配下の矢野国村によって気延山に矢野城が築造されている。これらの歴史的背景から、この一帯は阿波史跡公園として整備され、市民の憩いの場として利用されている。

徳島市立考古資料館には気延山から出土した複数の遺物が展示・収蔵されている。これらの遺物は戦前に気延山でおこなわれた土取りの際に出土したとされるものがあるほかに、戦後になって気延山周辺の住民が発見したことを示す注記票が残されていたものもあった。このことから、現存しているこれらの遺物は、同一の古墳からの出土遺物ではなく、複数の古墳から出土したものが集約されたものと考えられる。また、注記票に記載された出土地点と出土状況から、矢野城築城に伴って古墳が破壊され、散逸した遺物と考えられるものも存在する。

今回、気延山出土の遺物について考古資料、文化財活用の両面で一層の公開をはかる目的で図 化と写真撮影をおこなった。本稿ではそれらの資料を紹介するのと併せて、若干の考察をおこなっ ていく。



図1 気延山周辺地図(縮尺1/25,000)

1. 徳島市立考古資料館 2. 矢野古墳 3. 奥谷 1 号墳 4. 奥谷 2 号墳 5. 城山神社古墳群 6. 宮谷古墳 7. 八倉比売神社古墳群 8. 内ノ御田 1 号墳 9. 内谷古墳 10. ひびき岩古墳群 11. 尼寺古墳 12. 山の神古墳 13. 清成古墳 14. 高良山古墳 15. 阿波国分寺 16. 阿波国分尼寺跡 17. 矢野城跡 18. 瓦谷瓦窯 19. 内ノ御田瓦窯 20. 内ノ御田須恵器窯 21. 矢野遺跡 22. 中遺跡 23. 観音寺遺跡

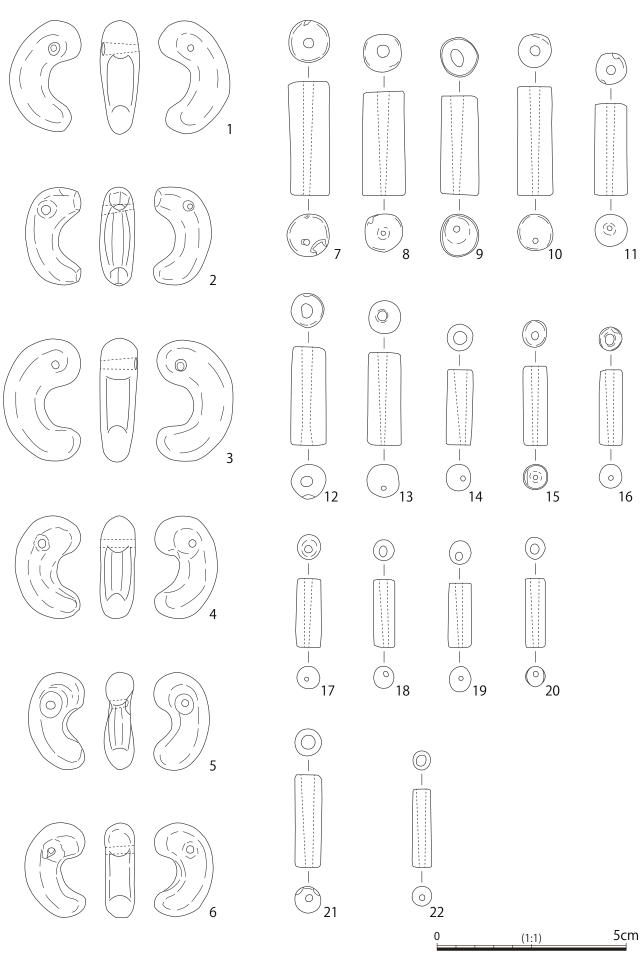


図2 気延山出土玉類(1)

装身具

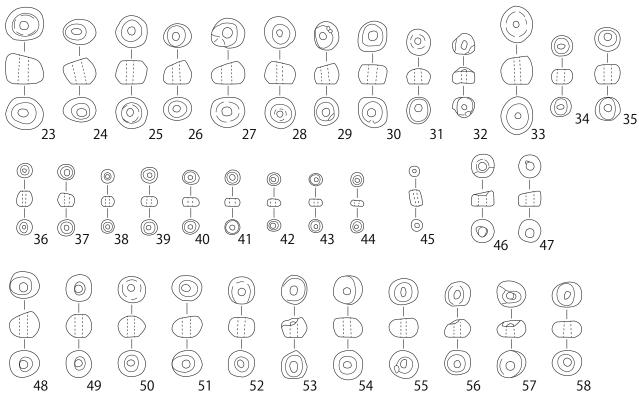
勾玉 (図2 1~6)

勾玉は6点存在する。このうち翡翠製(1)と琥珀製(2)、碧玉製(3)は丁寧な作りで腹部の抉りが深く屈曲の強い形態をとる。いずれも鉄製工具による片側削孔である。

滑石製($4\sim6$)については3点存在する。つくりはやや粗く腹部の抉りは浅い。4と6については片側削孔であるが、5については先端に削孔具を取り付けた舞錐あるは弓錐状の工具を用いて両側より削孔したと考えられ、勾玉の体部に工具の先端が抉ったような円錐形の窪みが残る。

管玉(図2 7~22)

管玉は 16 点存在する。このうち 14 点が碧玉製($7 \sim 20$)で、水晶製(21)と緑色凝灰岩製(22)が 1 点ずつ存在する。12 以外は片側削孔で鉄針が用いられたと考えられる。 $8 \times 9 \times 11 \times 15$ で片側削孔に伴う割れ円錐がみとめられるが、いずれも研磨作業によって整形されている。



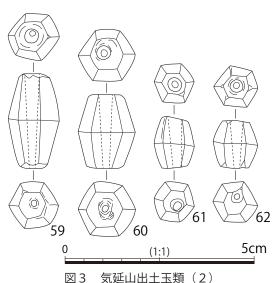
ガラス製丸玉 (図3 23~35)

13 点存在する。直径 5.5 ~ 9.5 ミリを測る。23 ~ 32 は透過性の高い紺青、32 と 33 は透過性の低い青磁色、34 は透過性の高い若竹色である。

ガラス製小玉(図3 36~45)

10 点存在する。直径 2.5 ~ 4 ミリを測る。36 ~ 44 は透過性の高い紺青で、45 は透過性の高い若竹色である。

滑石製臼玉(図3 46、47) 2点存在する。いずれも直径約6 ミリを測る。



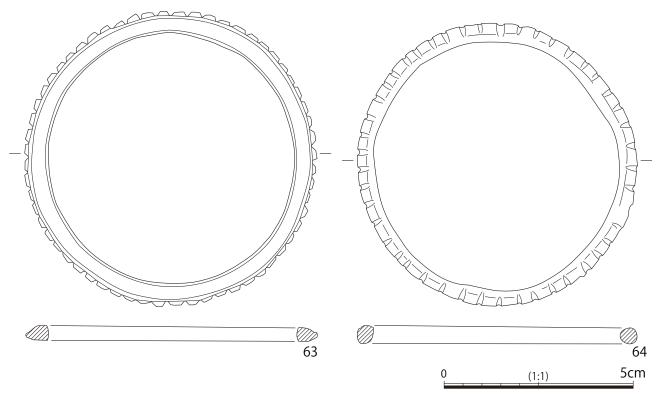


図 4 気延山出土鉄製釧

土製丸玉 (図3 48~58)

11 点存在する。直径は $8 \sim 7$ ミリを測る。いずれも表面を光沢感が出るまで磨かれている。色調はいずれも墨である。

水晶製切子玉 (図3 59~62)

4 点存在する。いずれも断面が六角形になるように面取がおこなわれている。幅と高さの比は 概ね 59 が 1:2 になり、 $60\sim62$ は 2:3 になる。いずれも鉄針による片側削孔で、割れ円錐がみ とめられる。

鉄製釧 (図 4 63、64)

63 は外径 7.8 センチ、内径 6.5 センチを測る。断面は内縁から外縁に向かうにつれて狭窄する 形状を呈し、外縁には V 字状の刻み込みがほぼ等間隔に 60 ヶ所施されている。

64 は外径 7.4 センチ、内径 6.5 センチをはかる。断面は不整形な円形を呈している。外縁に浅い刻み込みがほぼ等間隔に 46 ケ所施されている。

耳環 (図5 65~102)

37 点存在する。このうち 97 ~ 101 は、ほぼ芯材のみ遺存している。

65 と 66 については、金属製の芯材に薄く伸ばした金を巻き付けた金環である。また 98 と 100 は芯材にわずかながら金が付着しており、金環の可能性が高い。

67~96 については銀環と考えられる。69 は切れ目に銀と考えられる金属を円柱状に加工したものを挟んだうえでかしめている。なお、69 とほぼ同じ大きさである 68 は、出土後に金鋸で一部が切断された痕跡が残っており、切れ目に挟まれていた材を取りはずすために切断された可能性も考えられる。

96 は芯材を有さず、薄く延ばした銀を筒状に丸めて成形したものである。芯材を有する耳環の断面の形状が円形であるのに対して 96 は扁桃形を呈する。

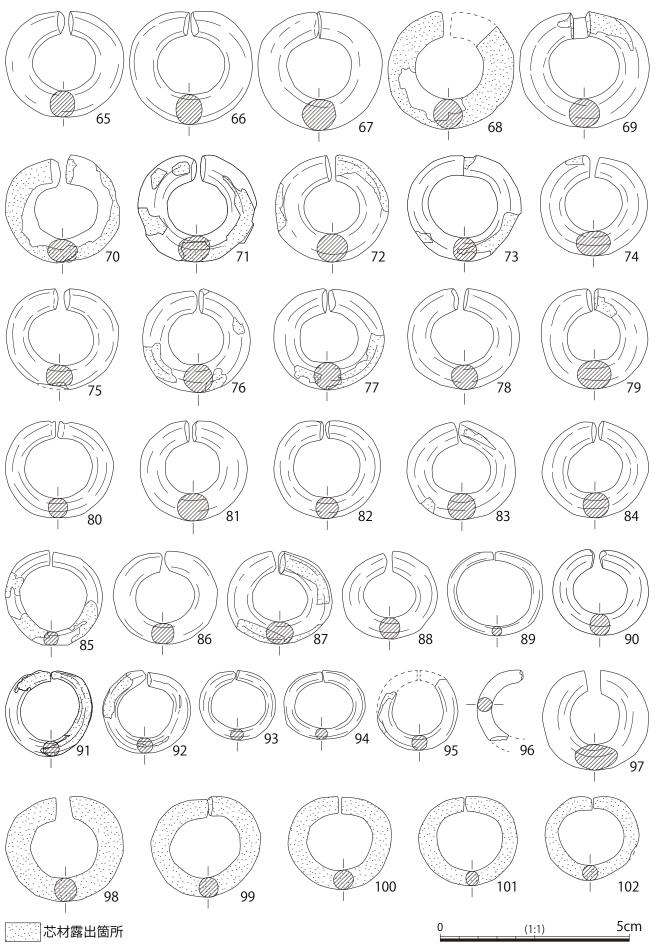


図 5 気延山出土耳環

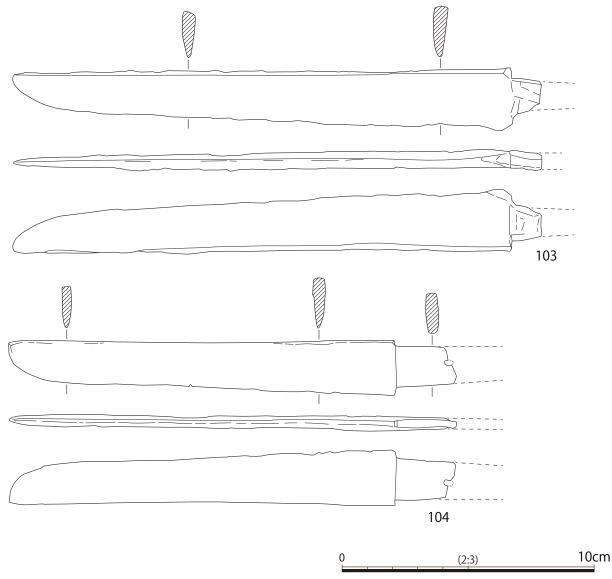


図6 気延山出土小刀

武器

小刀 (図6 103、104)

2点存在する。どちらも棟に厚みがあり、工具としての刀子と考えるよりも武器としての小刀と考えるのが妥当であろう。刀身に反りは見られない。103 は刃部の長さが 19.8 センチを測る。 茎は一部を残し折損している。104 は刃部の長さ 15.3 センチを測る。102 と同様に茎が一部を残して欠損しているが、束を固定するための目釘の穴が残存している。

鉄鏃(図7 105~124)

20 点存在する。折損しているものが多いが、全て有茎鏃である。鏃身の形状は 105、106 が柳葉形である以外はすべて長三角形である。錆により鏃本体が膨張しているものもあるが、全て平造りであると考えられる。 $105\sim115$ については有頸有茎鏃で、このうち $105\sim110$ は鏃身関部に腸抉を有する。 $111\sim115$ には腸抉が無い角関である。

 $117\sim123$ は無頸有茎鏃で、いずれも鏃身関部に腸抉は見られない。 $117\sim119$ と 122は角関で、120は二段の角関、121はナデ関である。

105 と 106 の群、107 と 108 及び 109 の群、115 と 116 の群は、それぞれ鏃身部平面の形状が酷似している。それぞれの頸部と茎部の長さについては統一性が認められないため推測の域を脱しきれないが、製作にあたって様が存在していた可能性が考えられる。

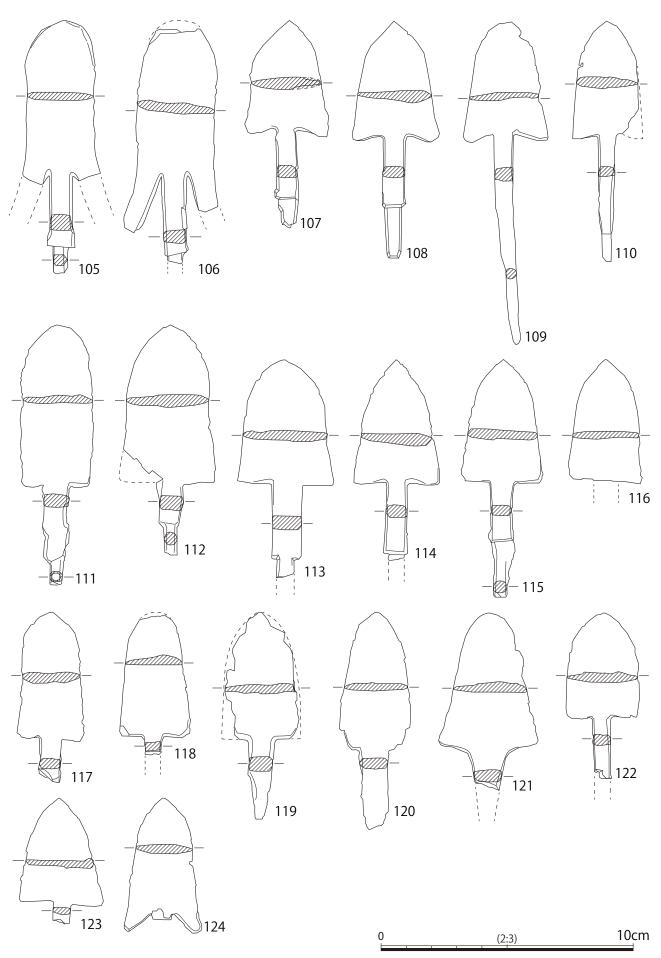
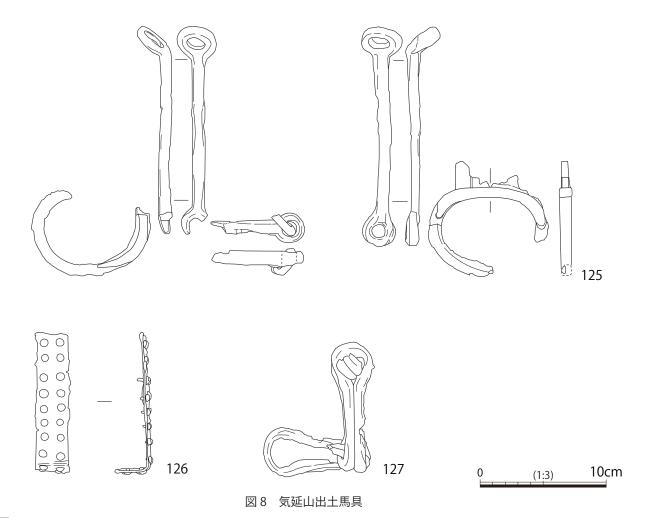


図7 気延山出土鉄鏃



馬具

轡 (図8 125)

素環鏡板付轡である。鏡板本体は錆による劣化が著しく、外表面の大半を失っており、わずかに原形をとどめる状態になっている。長径 9.5 センチ、短径推定 7.5 センチの横長の楕円形を呈し、透かしのある横長の長方形とみられる立間を有する。

銜は大半が失われている状態である。残存している銜先に別個体の銜先の一部とみられるもの が癒着しており、二連式の銜であったと考えられる。

引手は直径約8ミリの鉄棒を加工したもので、両端に円環を有する。手綱を繋ぐ側の円環(坪)は、外側に屈曲した形態をとる。図右側の引手は長さ17.4センチ、図左側の引手は一部が欠損しているため、正確な長さは不明であるが、図右側の引手に比べて5ミリ程度短くなると考えられる。

鐙金具 (図8 126)

厚さ約 1 ミリ、幅約 27 ミリの鉄板をL字状に屈曲させたもので、直径約 6 ミリ前後の鋲を横方向に概ね 12 ミリ間隔で 2 連、縦方向に 12 \sim 16 ミリの間隔で長辺側に 8 連、短辺側に 2 連残っている。長辺側の端部が不整形であることから、長辺側はさらに伸びていたと考えられ、木芯鉄板張壺鐙の鉄板が折損した一部と考えられる。

兵庫鎖(図8 127)

鞍と鐙を繋いでいたものと考えられ、直径約8ミリの鉄棒を加工して製作されている。2節分残存するが、原形をとどめているのは1節のみである。長さ10.3センチと8.5センチで、大きさに統一性は無い。

青銅鏡

獣文鏡(図9 128)

国立歴史民俗博物館の「日本出土鏡データ 集成」では乳文鏡 (徳島 No.40) と記されてい る鏡で、直径は 9 センチを測る。

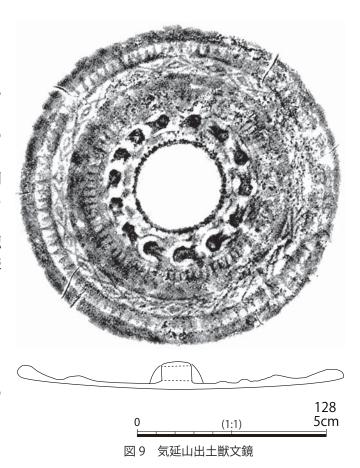
鈕座を配する鈕を有し、鈕孔は歪な隅丸の 方形である。

内区は小乳状に簡略化された獣文を 14 個の配している。内区と外区の間には起伏があり、内区側の斜面には櫛歯文を巡らせている。外区は複線の菱形連続文に続いて鋸歯文を配したのち、外縁にいたる。鋳潰れにより文様が不鮮明な箇所もみられる。

須恵器

高坏 (図 10 129)

無蓋の坏身は内外面とも回転ナデで調整されている。外面の中位に櫛描きの斜線文をめぐらす。脚部は長脚で中位に浅い凹線文を3条めぐらせている。凹線文を挟むようにして方形の透かしが3方に穿たれている。



璲(図10 130)

体部の中位から下位は回転へラケズリ、中位から上位にかけては回転ナデによって整形している。体部中位に小孔を穿ち、その直上に2条の凹線を巡らしている。頸部の上位に2条の凹線をめぐらせている。口縁部は欠失している。

提瓶 (図 10 131、132)

130 は体部を側面からみて片側は扁平、反対側は扁球状を呈している。整形は扁平な側を接地させたうえで扁平な側は回転ヘラケズリ、扁球状の側は回転ヘラナデで外縁から中心に向かって一気に仕上げている。口頸部はヘラナデで整形している。両肩に角状の双耳がつく。

131 も体部を側面からみた片側は扁平で、反対側は扁球状であるが、130 に比べるときわめて扁平に近い形態を呈している。整形は扁平な側を接地させたうえで扁平な側はヘラケズリ、扁球状の側は回転ナデで整形している。口頸部の大半が欠損している。両肩に釦状の双耳がつく。

平瓶 (図 10 133~135)

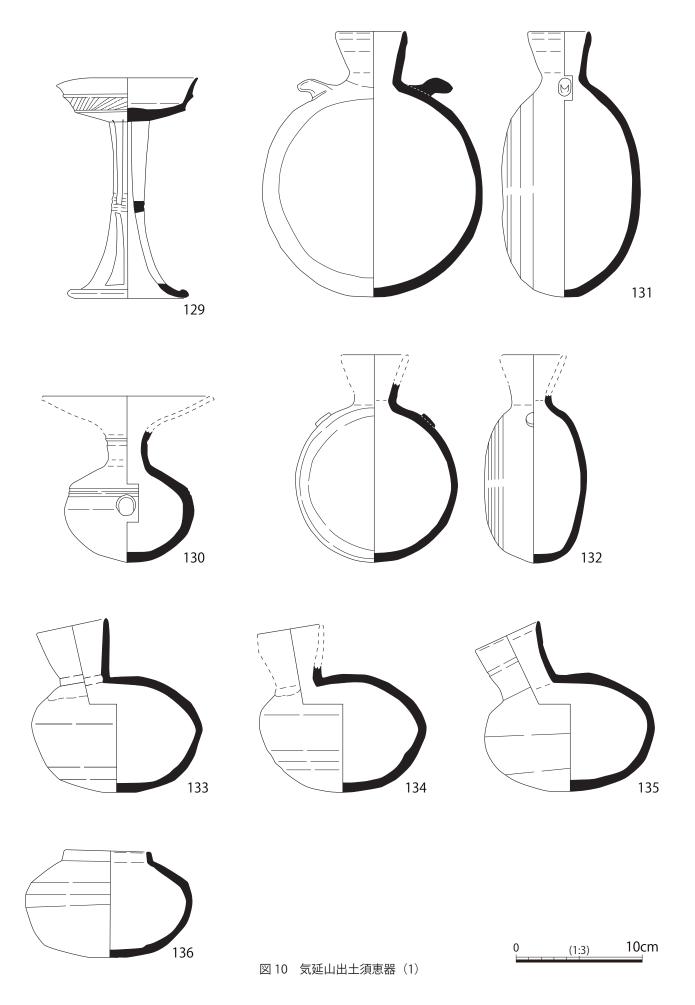
133 は体部の下位は回転ヘラケズリで、上 ~ 中位は回転ヘラケズリのあと、回転ナデで整形している。後頚部は回転ヘラケズリのあと回転ナデで整形したのち、体部と結合している。

134 は体部は回転ヘラケズリのあと、回転ナデで整形している。口頸部は欠損しているが、体部に結合する際に繋ぎ目に粘土を薄く塗り付けていたとみられ、その痕跡が体部に残る。

135 は体部の下位はカキメ、中位は回転ヘラケズリ、上位は回転ヘラケズリのあと回転ナデで整形している。口頸部は回転ナデで整形しており、中位にごく浅い凹線を1条めぐらす。

短頸壺(図 10 136、図 11 137)

136 は内外面とも回転ナデで調整されている。蓋は存在しない。



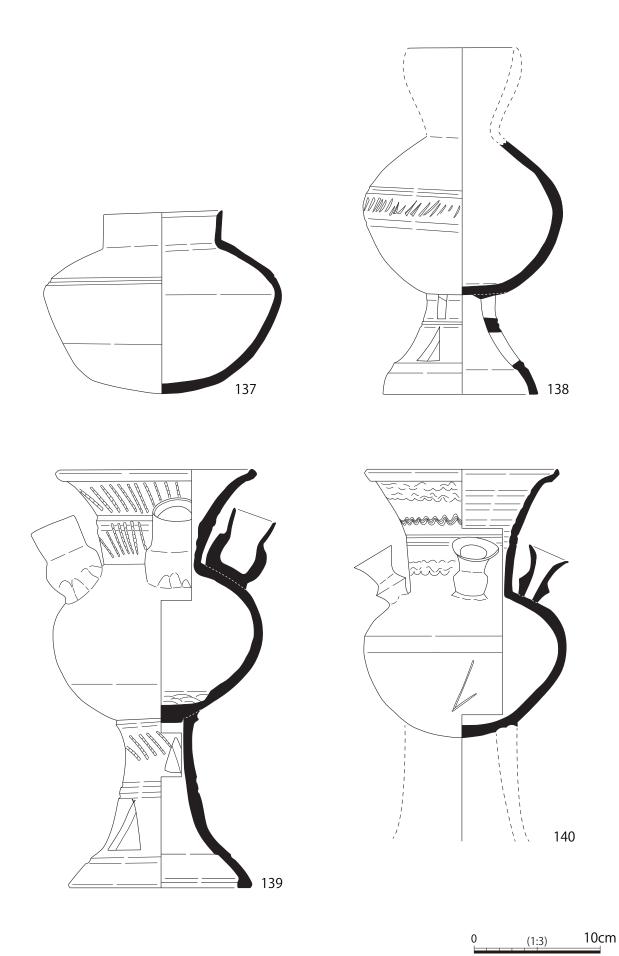


図 11 気延山出土須恵器 (2)

137 は焼成時の歪が目立つ。体部下位は回転ヘラケズリ、中位から上位、頸部は回転ナデで調整されている。体部の中位よりやや上方で張り出し、張り出しの直上に2条の凹線を巡らす。

台付壺 (図 11 138)

後頚部は欠損している。体部の最も張り出した箇所に斜線文が施され、斜線文の上下に1条ずつ凹線文をめぐらす。脚部は上位に長方形、中位に三角形の透かし穴を3方に穿つ。下位から大きく屈曲させており、その位置に稜をめぐらす。

脚付子持壺形須恵器(図 11 139、140)

2点存在する。どちらも山田邦和氏の装飾付須恵器分類のⅢ-1に区分される。

139 は扁球状の体部を持ち、下位はタタキ、中位 ~ 上位は回転ナデにより調整されている。口頸部は中位に2条の凹線を巡らし、7叉状工具による列点文を2段巡らす。脚部は上位から下位にかけて直線状に開き下位になると外側に屈曲する。上位に体部と同じ7叉状工具による列点文を巡らし、中位に2条、下位に1状の凹線を巡らす。三角形の透かしを2段で各段3方に穿つ。体部の方に口縁が直線状に開く子壺を4方に取り付けている。

140 の体部は中位よりやや上方で張り出す。下位から中位は回転ヘラケズリ、上位は回転ナデにより調整されている。下位に調整後V字状のヘラ記号が見られる。口頸部の中位に2条の凹線文をめぐらせ、その上方に櫛描波状文を2条、下方に1条めぐらせる。上方下段の櫛描波状文は明瞭に施文されており、そのほかはかすれたような表現で施文されている。脚部は欠失している。体部の肩に底部を削孔し口縁部が外側に開く小壺を4方に取り付けている。

まとめ

今回調査をおこなった遺物は全て古墳に帰属するものであった。須恵器はⅡ期とⅢ期に大別で (世代) き、鉄鏃についても水野敏典氏の年代観に基づくと6世紀後半に該当する。金属製の武器の遺存 状態や、馬具の存在は横穴式石室を有する古墳への副葬が想定される。

耳環は出土している数量からみて、追葬の可能性を考慮したとしても、同一の古墳から出土したと考えるよりも複数の古墳から出土したものが集約されたと見た方が素直である。金環の数に対して銀環の数が多いのは、気延山に埋葬された集団の性格を示唆しているとも考えられる。

遺物の出土地を特定するような遺物は存在しなかったが、現在確認されている古墳の他に複数の古墳が存在していたとみられ、菅原康夫氏が指摘するように気延山に存在する古墳の実数がさらに増加する可能性が考えられる。

- 註1 徳島考古学研究グループ 1971年 『気延山古墳群の調査』
- 註2 ガラス製玉類の色名については、日本工業規格『JIS Z 8102:2001 物体色の色名』にある付表1に示されている慣用色名を使用する。
- 註3 鉄鏃の部位の名称および形状の表現については、水野敏典氏の分類に従う。 水野敏典 2013 年 「⑤鉄鏃」『古墳時代の考古学』 4 副葬品の形式と編年 同成社
- 註4 国立歴史民俗博物館 1994年 『国立歴史民俗博物館研究報告』第 56 集 共同研究「日本出土鏡データ集成」2
- 註 5 山田邦和 1992 年 「装飾付須恵器総覧―装飾付須恵器の基礎的研究 3 ―」『古代学研究所 研究紀要』第 2 輯 古代学協会
- 註6 田辺昭三 1981年 『須恵器大成』 角川書店
- 註7 註3前掲書
- 註8 菅原康夫 1988 年 『日本の古代遺跡』37 徳島 保育社



写真図版 1 気延山出土玉類



写真図版 1 気延山出土鉄製釧・耳環















写真図版 3 気延山出土武器・馬具・鏡



写真図版 4 気延山出土須恵器